

# 災害時、聴覚障害者の意思疎通補助/マスク着用時の筆談にも

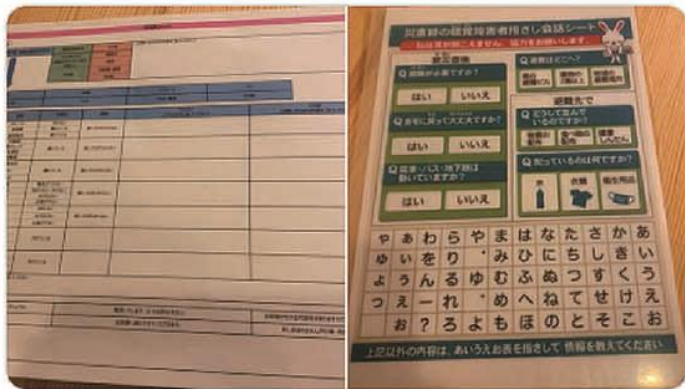
## 指さし会話シート活用を

2022年5月23日

先日泊まったホテルの対応がすごかった。  
 予約する時に「耳が聞こえないので筆談での対応をお願いします」って書いただけなのに、  
 チェックインの時に説明される内容をまとめた紙の他に、下の写真みたいに

- ・問い合わせ用のチェックリスト
- ・災害時の指差し会話シート

まで用意してくれたのほんとと神👏



25 2,224 9,080

河北新報社は災害時の聴覚障害者の意思疎通を補助する「指さし会話シート」をリニューアルし、河北オンラインニュースで公開した。筆談スペースを追加するなど使い勝手を良くした。自然災害だけでなく、新型コロナウイルスの流行に伴うマスク着用時の活用も想定する。

シートは2枚で構成。「震災伝承・防災プロジェクト」むすび塾/次世代塾2のページでダウンロード後、印刷して使う。小学校で習わない漢字は読み仮名を振ったり、平仮名で表記したりした。

1枚目は避難の必要性など被災直後の対応を尋ねる質問ごとに「はい」「いいえ」の選択肢を付けた。あいうえお

we support ↓

# RQ

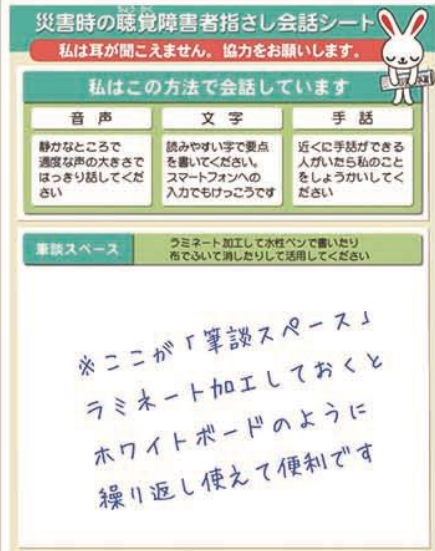
災害教育センター

# MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう！大作戦しんぶん」改め  
 復興支援「すけさきたしんぶん」  
 かめばん

「すけさきた」とは宮城県登米市あわりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である

JULY 11 2022



新型「コロナ」が流行し、感染予防の一環でマスクの使用が広がった。口の動きや表情が見えないため、聴覚障害者は意思疎通に困っているという。

みみサボみやぎの担当者は「せつかくのシートも、聞こえる人が知っているかどうかで活用の幅が違ってくる。シートを使ったコミュニケーション方法があることを多くの人に認知してほしい」と呼び掛ける。

表には、小文字や記号を加えた。2枚目は「文字」「手話」など障害によって異なる会話方法に応じた要望事項を記載。「音声」では「静かなところで適度な声の大きさで、はっきり話してください」と協力を求める。

筆談スペースも設けた。水性ペンで書いた後、布で拭いて消し、繰り返し使えるよう、シートのラミネート加工を推奨している。

河北新報社は今年1月、仙台市青葉区の宮城県聴覚障害者情報センター(みみサボみやぎ)で、防災ワークショップ「むすび塾」を開催。参加した聴覚障害者や支援者、松崎文宮城教育大准教授らの意見を踏まえてシートを作り、今回は関係者の助言を基に一部内容を改めた。

- 「災害時の聴覚障害者指差し会話シート」  
musubi\_sheet.pdf (河北新報社)
- 携帯できる「緊急・災害用お願いカード」  
【印刷用】mimisuppo-miyagi.org/data/★onegaicard-A4.pdf  
【スマホ用】mimisuppo-miyagi.org/data/onegaicard-sumaho.pdf (宮城県聴覚障害者情報センター)
- 周囲のかた向け「聴覚障害者災害時支援パンフレット」  
mimisuppo-miyagi.org/data/saigaisien\_ALLver.pdf (宮城県聴覚障害者情報センター)

停電や通信障害に備えて印刷・記入したカードも携帯しておくことをおすすめいたします

資料：河北新報社、宮城県聴覚障害者情報センター、Twitter